

嵐山溪谷ハイキング (平成 29 年 11 月 26 日)

10 月の例会で、伊藤さんから提案のあった“もみじ狩コース”として、嵐山溪谷に行くことにした。1 週前の TV ニュースでは秩父・長瀬などの紅葉が見頃と紹介されており、本年は例年に比べて早目に紅葉季節を迎えているようだったが。気象情報では、当日は冷え込むが天気は曇り時々晴れと期待できそうだった。参加者は、天野、荻野、早坂、三浦、陽田の 5 名に加えて、天野さんの知人の田中さんが参加されることになり、6 名となった。

当日は、9 時 30 分東武東上線池袋駅発の快速か、10 時 30 分武蔵嵐山駅集合という予定である。三浦さん、早坂さんは早めの電車で現地に向かい、天野さんと田村さんは八王子から武蔵野線経由で嵐山駅へ行く。結局荻野さんと陽田が予定の快速電車で出発し、武蔵嵐山駅で全員合流した。今日は素晴らしい快晴となったが、“晴れ男がいて、雨男がいないから”とつぶやく人がいた。

昨年 9 月に「栢平」へ秋海棠を見に来たときには、ここからバスに乗ったが、今回は歩きだ。駅前を少し歩いて県道 296 号線へ出、クランクに曲がって南下する。直ぐに鰻屋を見つけて、帰りの反省会の会場ではどうかという話になった。また暫く行くと“ラーメン”屋があり、ここも候補だという。気の早い人達だ。案内図に従い、国道 254 号線を横切ると、左手に半分葉が落ちた栢、檜などの巨木の林が見えてきた。「蝶の里公園」という立札があった。そういえば来る途中の歩道に“オオムラサキ”(国蝶)の綺麗なタイルが数多く埋め込まれていたが、これを指すのだと納得した。

広い道路に出たので左折して、蝶の里公園に沿って歩いてゆくと橋に出た。橋の名前を見ると“都幾川”(トキガワ)となっている。橋を渡りかけると大平山が段々後になるので、おかしいと地図を見直したらなんと嵐山溪谷から離れてしまう。あわてて逆戻りして橋の手前から、目的の“槻川”(ツキガワ)沿いにコースをとり正常方向に戻した。少し大廻りしたが「嵐山溪谷バーベキュー場」にたどり着いた。

駐車場にはかなりの車が停っていて、バーベキューの人だけでなく、紅葉を見に来た人達も多そうだ。槻川沿いに河原を歩く。奥行 30cm、幅 90cm 位のコンクリ製の“石”の歩道ができています。しかし歩幅が合わないため少し歩きにくい。15 分程歩くと川を”飛び石”で渡る場所に来た。河原の歩道の石と同じ物らしい。河面から 5cm ほどきり出していないので、増水すると渡れなくなる。京都・鴨川にも同じような“橋”があった。嵐山の地名も京都・嵐山からきているらしい。

向う岸に紅葉したもみじの木が一行に植えられており、日が当たって綺麗な眺めだ。“橋”を渡って少し歩くと、「冠水橋」への分岐へ出た。この橋で四万十川の冠水橋を思い出した。丁度 12 時になってしまったので、展望台よりも先に河原のビュースポットに行く。午後になるとここからの眺めが日陰になってしまうからだ。

河原に下りると眼前の崖の上に展望台が見え、日に照らされたその崖面の紅葉が素晴らしい。槻川はここで左直角に曲がっているが、正面の崖の方は少し日陰になってしまったのと、黄、茶色が多く

少し冴えない。まあここで昼食を摂ることにした。風が全くなく日差しが暖かで気持ち良い。

冠水橋を渡って元の道に戻り、崖の上の展望台を目指す。展望台には高さ 3m 位のかんりの大きさの台が作られていたが、必要なのだろうかと思ってしまった。ここから先へ槻川がヘアピンカーブになり一枚屏風の崖になっている。この崖上の先に与謝野晶子の歌碑があるというが、パスしてしまった。行ってみるべきであったかな。

展望台から 13 時 20 分に戻ることにする。川岸の柵や木にかなりの高さ（現在の水面上 1m 位か）まで枯れた草、葎や小枝などが引っかかっている。ここまで水が上ったのだなと分かる。この辺川幅が広いからすごい濁流だったろうなと思う。

帰りは行きとは変えて、県道 173 号線を北上して武蔵嵐山駅に向かった。

14 時半に駅に着いたが、周りには反省会場がない。天野組は新宿経由では長くかかるのでと渋るの、一駅先の小川町で探すことにした。小川町では 15 時前だが、駅前“そば処 しむら”を見つけて入る。今日の反省材料は 2 つ。最初は往きに道を間違えてしまったこと。幸いあまり深刻な事態にはならなかったが、やはり地図をしっかりと見て歩かねばならない。また小生回り道をしたため、焦って途中ほとんど休まずに歩いてしまったために、“平地といえども時には休んでほしい”というお叱りを受けてしまった。“平地なので、ヘイチ（ヘイキの訛り）だと思っていた”などとおっしゃる方もいたが、田中さんは、お気の毒に歯が痛くて食べられないとのこと、それで歯は大切であるとか、転んで前歯を折ったが、翌日まで気が付かなかったなどの話になった。痛風とビールと“もつ”の因果関係などなど、有益なお話が出てきて、17 時少し前にお開きになった。

小川町の駅で、天野組は八高線で帰ることになり、我々 4 名の池袋へ向かう組と別れた。

それにしても暖かな快晴の天気によかった。紅葉も丁度よい時期だったろう。やはり日の光を浴びた紅葉は素晴らしい。おまけ：都幾川岸に約 2km に亘って櫻並木があり、見応えがありそうである。（時期：3 月下旬～4 月上旬）

陽田 記



写真（三浦）：<https://youtu.be/XfgtOfmaBME>